

特定非営利活動法人 地域おこし

2016年度 年次報告書



ご挨拶

中越大震災を契機に発足以来13年目、そしてNPO法人として再出発以来6年目に入りました。多くの方々から篤いご支援を頂き、今日に至る事が出来ました。感謝申し上げます。

6月17日には当法人の総会を開催いたしました。前年度は残念ですが今までにない額の赤字決算となってしまいました。赤字を生む部門の徹底的な見直しを図り、来期は黒字化する決意です。

さて、私達は中山間地など地方地域の活性化を目指していますが、この事は地方で人が住み続けられる仕組み創りと、そして暮らしそのものの再評価にあると考えます。人が生活するに食、住、経済(仕事)が要る事は論を待ちませんが、中山間地では専業農家・兼業農家にとどまらず、多くの住人が地方ならではの余裕ある農地や空き地を利用して自家菜園を持ち、食を作る暮らしをしています。

農ある暮らしの中で自ら育てた食べ物は、安全性や味覚的にも格別な価値あるものです。何よりもそこに生命の連鎖が営まれ続け、この価値観は普遍的とも言えるのではないのでしょうか。

暮らしは食であり、食の生産は暮らしの保証でもあります。食の安全保障という観点からも食の自給に向けた努力が必要と考えます。狭い国土と現在の食料自給率を考えた時、中山間地の果たすべき役割はとても大きいと言えます。

池谷・入山集落では、農地の継続に必要な「米乾燥共同施設」(ライスセンター)の建設を目指しており、昨年の総会でも提案させて頂きました。来年度の着工を目標に準備中ですが、行政助成金獲得への課題など簡単ではありません。集落の農家の高齢化に拍車がかかる中、出来るだけ早く着工にこぎつけたいと考えております。

昨年4月より1年間池谷分校でインターンシップをしたインターン生も池谷定住を決め、就農者育成住宅「めぶき」の入居者はこの4月より1人増え3名となりました。

懸案であった、特定非営利活動法人「地域おこし」への名称変更は登記手続きも完了しましたので、今後とも文字通り全国の過疎地を元気づける活動を展開したいと考えております。

今後とも変わらぬご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

2017年6月

特定非営利活動法人地域おこし
代表理事 山本浩史

もくじ

ご挨拶・もくじ	2
私たちの活動	3
池谷・入山モデルづくり事業	4・5
地域おこし応援事業	6・7
地域復興支援員設置事業	8
メディア掲載・応援メッセージ	9
会計報告	10
職員紹介	11
団体概要	12

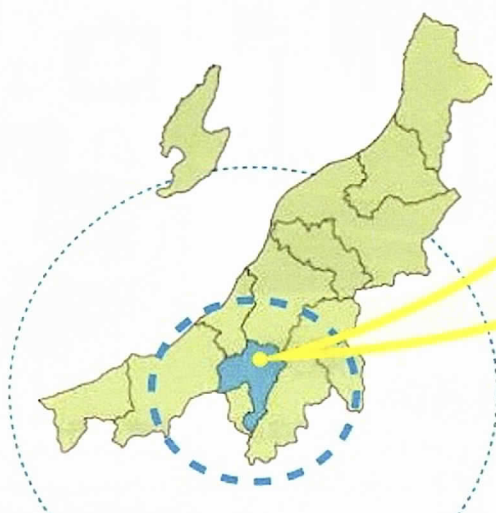


「めぶき」に入居する安藤さん(左・飛渡地区地域おこし協力隊)、馬場さん(右・NPO地域おこし職員)と

私たちの活動

理 念

1. 池谷・入山地区の集落と農業の継続を実現しつつ、全国の過疎の集落が抱えている集落存続問題の成功例を示す。
2. 持続可能な新しい村づくりを実践し、循環型の社会モデルを目指し100年持続させる展望を示す。
3. 地元住民だけでなく地域外の関係者も含めて、新しい村づくりを進める。
4. 相互扶助と心豊かな社会実現を目指す。



まずは・・・

池谷・入山集落を存続させます。

・池谷・入山モデル作り事業

そして、

十日町市を元気にします。

- ・地域おこし応援事業
- ・地域復興支援員設置事業
(里山プロジェクト)

最終的には

日本の過疎の成功モデルを示し、
日本や世界を元気にします！

・地域おこし応援事業



池谷・入山モデル作り事業

●山清水米直販

・平成27年産米

山清水米の全生産者が新潟県の「特別栽培米」の認証を取得し、和日米会様の「限界集落プロジェクト(郷プロジェクト)」に107俵(6,420kg)、農民運動全国連合会に35俵(2,100kg)、飛渡の未来を創る会に61.5俵(3,690kg)を出荷しました。一般販売分としては、「山清水米」158.5俵(9515.2kg)、「超特選 農薬・化学肥料不使用『山清水米』はざ架け米」(以下はざ架け米)12.5俵(752.25kg)を出荷しました。

・平成28年産米

和日米会様に100俵(6,000kg)、飛渡の未来を創る会に345俵(20,700kg)出荷しました。一般販売分としては3月末時点の発送済と予約分で87.8俵(5268.6kg)、はざ架け米10.3俵(622kg)の販売量となっています。

※特別栽培米…化学合成農薬および化学肥料の窒素成分を慣行レベルの5割以上削減して生産したお米。



●農業生産

2016年度は、株式会社とびたりから新たに1町歩(約1ha)を借り受けて、継続の1町歩と合わせ2町歩の田んぼを耕作することとなりました。前年の冬は雪が少なかったことから、春先の水管理を村の方々から心配されながらも、何とか収穫にこぎつけました。ただ、面積が倍になり、思うように作業がはかどらず、収量はいま一つとなりました。

また、村の方々と話し合いをし集落内に「米乾燥共同施設」(ライスセンター)を建てようという動きとなり、建物や機械の見積もりや設計図の作成など準備を進めました。助成金を使い、2018年度に着工を目指しています。

さらに、法人として認定農業者となりました。

昨年度につづき、ポップコーンの栽培も行い、約51kg収穫しました。農薬化学肥料不使用の自家製ポップコーンとして、市内各地のイベントに出店し、認知度もあがってきました。



●加工品販売

2016年度は、既存の商品で売れ行きの良いものにラインナップを絞り込み、商品の集中と選択を行いました。野菜がゆ・豚角煮大根については製造終了、山菜炊き込みご飯の素も現在の在庫をもって製造終了、大口注文時のみの受注生産品とした一方、主力の白がゆは、従来の個食用(250g)に加え、業務用の1kgパックを商品に追加しました。

白がゆ250gは、既存の東京・兵庫の神社への販売に加え、京都の神社への販売も受注。新商品の白がゆ1kgパックは、県内デイサービスに業務用として年間注文を受注しました。大手メーカーの大量生産品とは異なる希少商品であること、業務用の1kgパックも販売していることなど、「山清水米白がゆ」だけの特色を生かし販路拡大を試みていきます。



池谷・入山モデル作り事業

●体験交流

2016年度は計9回のイベントを開催し、のべ参加人数は355名となりました。また、交流人口は882名でした。

2016年度イベント一覧

実施日	イベント名	参加人数
4月29日	池谷の山菜を楽しみ尽くす会！	36名
5月21日	料理イベント @東京(2回開催)	27名
6月4日	田んぼへ行こう！(田植え)	13名
7月3日	やまんなかマルシェ in いけたに	150名
7月23日	ありがとうの会 @東京	39名
10月8日	田んぼへ行こう！(稲刈りとはざかけ)	21名
11月7日	収穫祭	52名
1月28日 ～29日	池谷雪かき道場	6名
2月11日	雪国でかまくらを作って呑む会	11名

池谷の山菜を楽しみ尽くす会！

昨年に続き、日帰りのイベントとして開催いたしました。首都圏や新潟市方面から大勢の方にご参加いただき、村人と一緒に山菜採りと山菜料理を楽しみました。

料理イベント

初の試みとして、東京在住の栄養士の方にご協力いただき、東京で十日町を知って・食べて・学ぶ料理イベントを開催しました。今までつながりはなかったけれど、十日町に興味のある首都圏の方がご参加くださり、新しいつながりを生むことができました。イベントでは、十日町の旬の食材と山清水米を楽しんでいただきました。



田んぼへ行こう！

6月に飛渡地区の田んぼアートの田植え、10月に農薬・化学肥料不使用のはざかけ米の稲刈り・はざかけを行いました。また、株式会社YELL(エール)とコラボし、同社が経営する市内のレストラン「ALE beer&pizza」の料理をふるまっていたき、大変好評でした。

やまんなかマルシェ in いけたに

昨年度に続き、池谷分校でマルシェを行いました。市内外から飲食店や雑貨店など14店舗に出店いただきました。当日はあいにくの雨でしたが、昨年同様約150人のお客様に来ていただきました。続けることによって、徐々にイベントや池谷集落の認知度があがってきたと思います。

※マルシェ…フランス語で「市場」

ありがとうの会

東京・神田で支援者の方に来ていただき、開催しました。当日はゲームをしたり意見交換をしたり、池谷集落から持参した食材で作った料理を食べたりして、支援者の皆様と交流し、絆を深めることができました。

収穫祭

「わかもの×コラボ＝地域力創造作戦会議」と銘打ち、十日町市内で活躍する若手4名の方に来ていただき、パネルディスカッションを行いました。市内外から幅広い方にご参加いただき、十日町市の活性化について活発に意見交換がされました。その後の懇親会も多いに盛り上がりしました。

池谷雪かき道場・雪国でかまくらを作って呑む会

昨年度から「越後雪かき道場」を主催するNPO法人中越防災フロンティア様からのれん分けをいただき、「池谷雪かき道場」として独自で開催しています。初級ではかんじきやスノーダンプの指導、中級では安全帯を使用しての命綱講習を行いました。

また、かまくらのイベントでは、池谷集落の隣の轟木(とどろき)集落からかまくらづくり指導に来ていただき、20人ほどが入れる大きなかまくらを作って、その中で交流を深めました。

●インターン受入

公益社団法人中越防災安全推進機構が運営するインターンシップ制度「にいがたイナカレッジ」のインターン生として、愛知県出身の森孝寿(たかひさ)さんが、4月20日から1年間のインターンを行いました。

主に農業に従事いただき、整体師の資格をいかして飛渡の未来を創る会のウェルネスツーリズムの企画・運営にも取り組みました。

インターンシップ終了後は、池谷分校から農業研修生向け住宅「めぶき」に居を移し、池谷集落に定住しました。当法人の農業の手伝いや、地元の醸造会社でアルバイトをしています。

地域おこし応援事業

● 視察・講演・研修会

視察

十日町市内、新潟県内・県外から19団体303名の方にお越し頂きました。

日付	団体名	人数
6月9日	香川県政策部地域活力推進課	4名
6月26日	根知の未来を考える会(糸魚川市)	20名
7月7日	新潟県長岡地域振興局	20名
7月22日	柏崎市認定農業者等連絡協議会	30名
8月21日	米寿米の郷(福島県)	20名
8月25日	新潟県議会厚生環境委員会	16名
9月7日	真人里地高齢者学級(小千谷市)	37名
9月12日	岩手県で復興に取り組むNPO	8名
9月30日	新潟県総務管理部人事課	19名
10月14日	邑楽郡企画部会(群馬県)	6名
10月14日	実践女子大学	7名
11月7日	高郷町行政区長会(福島県)	10名
11月14日	いわてNPO経営ゼミ	6名
11月15日	真人北部コミュニティセンター(小千谷市)	19名
11月16日	七尾市棚田ネットワーク(石川県)	23名
11月28日	地域づくり組織活性化研修	18名
12月9日	木祖村連合自治会(長野県)	14名
3月17日	川西支所(十日町市)	10名
3月19日 ～20日	静岡県志太榛原農林事務所	16名
	計19団体	303名

講演・研修会

47会場に訪れ、3593名の方に聞いて頂きました。講演を聞いた方から個別に新たな依頼を頂くようになり、地域おこしのモデルを全国各地に広めていくという事が少しずつ形になってきています。

【主な講演先】

日付	会場名	人数
4月18日	地域おこし協力隊推進会議@仙台	107名
5月23日	地域おこし協力隊推進会議@岡山県高梁市	113名
6月8日	地域おこし協力隊推進会議@関東	190名
6月13日	地域おこし協力隊推進会議@北海道	122名
6月21日	新潟県地域おこし協力隊担当者研修	44名
6月27日 ～28日	新潟県地域おこし協力隊初任者研修	36名
7月5日 ～6日	関川村移住者を受け入れる地域の心構え	34名
7月5日	地域おこし協力隊推進会議@富山	111名
7月15日	地域おこし協力隊推進会議@福岡	237名
8月9日	元気とやまむらづくり推進大会	900名
8月28日	兵庫県丹波市丹波市から始めるふるさと創生シンポジウム	150名
9月28日	都市・農村共生社会創造シンポジウムin信州@長野県下諏訪町	407名
11月9日	十日町高校ゲストティーチャー	19名
11月27日	地域おこし協力隊全国サミット	120名
12月7日	奈良女子大学付属中等教育学校講演	19名
12月20日	食料・農業・経済研究会	11名
1月10日	十日町高校起業セミナー	70名
2月13日 ～14日	総務省地域おこし協力隊初任者研修	80名
2月28日	上越市中山間地域活性化研修	100名
3月18日	長岡イノベーションシンポジウム	40名
	他27会場、計47会場	3,593名